

実践報告

「いろはかるた」づくりで心をひとつに

COVID-19禍における初年次セミナー

七木田方美・馬杉 知佐・久保田貴美子・高德 希
楠本 恭之・児玉 理紗・松島 暢志・内本 充統

1. はじめに

令和2年度の授業は、COVID-19の影響で、ゴールデンウィーク明けがスタートとなりました。しかも感染予防の観点から、対面を可能な限り控えることになり、オンラインによる授業をすることになりました。

水曜日2時間目(10:40-12:10)の初年次セミナーもオンラインで実施することになりました。内容は、保育に関わることにこだわりつつも、学生が、幼児教育科で学んでいることを意識できることと、同じ志の仲間がいることがわかることで、入学当初の修学意欲を持続させることをねらいました。また、授業のオンラインのグループ編成は、最初は8チューター別の12人前後の編成で実施することにより、チューターの中の大切な一人であることを意識できるようにと考えました。

授業の内容については、教員によって遠隔授業のスキルの差もあり、学びの公平性という観点から一斉のオンデマンド型授業や課題提示型授業にしてはどうかという教員からの意見もありました。しかし初年次セミナーの重要なポイントは、大学で顔を合わせなくとも、1年生全員が「幼児教育科に入学してよかった」と感じるようなスタートをし、2年間のタイトな授業や課題をやりぬく意欲を持つことと考え、学生に助けをもらいながら、チューター毎に実施することにしました。

2. 授業シラバスの変更

授業シラバスは、令和2年の特別な年にふさわしい内容に変更しました。「幼教いろはかるた」を作成することについては、「楽しく学んで、おもしろい大学生活を送って、朗らかな保育者になってほしい」という強い念願のもと実施することになりました。

【初年次セミナーの概要】

この授業は、高校教育から大学教育への円滑な移行のために、本学の建学の精神・教育理念を理解し、学生同士、学生と教員との信頼関係を築きながら、次の3つの力を培います。

- (1) 本学で学ぶ意欲を持ち、自分を見つめ、自分を発見する。
- (2) 大学で学ぶための学修の基礎的な技術・方法を身につける。
- (3) 幼児教育科で学び、保育者を志す者としての心構えを身につけ、自己管理ができる。

具体的には、履修方法、スケジュール管理、図書館やカンファレンスルームの利用、レポートの書き方などを、一斉形態や少人数形態での授業で進めていきます。

【授業内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Hi!wayからクラスプロファイルの機能を使ってみよう
- 第3回 令和2年度前期の授業の受け方を知る
- 第4回 メールの書き方・川柳を作ろう

- 第5回 子どもの情景を川柳にしよう
- 第6回 身近な園を調べ紹介する—自分の卒園した園を知る
- 第7回 身近な園を調べ紹介する—自分の卒園した園を紹介する
- 第8回 身近な園を調べ紹介する—自分の住まいの近くの様々な就学前施設を調べる
- 第9回 身近な園を調べ紹介する—自分の住まいの近くの様々な就学前施設を紹介する
- 第10回 よく利用する学内の場所の使い方
- 第11回 HIJIYAMA手帳を活用して快適に大学生活を送る
- 第12回 前期に学んだ保育・幼児教育のカルタ作成
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

3. 川柳づくり

「いろはかるた」を作成するには、限られた文字数の中に情景や気持ちをコンパクトにする練習が必要です。そこで、オンライン授業のスタート時点から、川柳づくりに取り組みました。

(1) 自分の気持ちを川柳にしてみる

1年生にとっては、入学したけれど、新しい仲間ができずにいました。また、自粛生活が続く中、複雑な気持ちを表に出すことで、ストレスから少しでも解放されればよいと考えました。年生が連休明けの初年次セミナーの最後に書かれた川柳の一部を紹介します。どれも、「わかる！わかる！」という共感を呼ぶ川柳です。

体重計 のるとわかる 自粛太り
 外に出て 歩いただけで 筋肉痛
 布を買い おうち時間で マスク縫う
 こんなにも 人に会わない 悲しいよ
 自粛中 遊ぶ相手は 猫1匹
 大学生 楽しみなこと 遠ざかる
 家の中 なにもしないが 疲れたよ
 あと少し コロナウイルス 負けないぞ
 オンライン みんなに会えて 嬉しいな

コロナでも みんなでビデオ通 楽しいな
 オンライン 上だけ着替え 下パジャマ

(2) 子どもの情景を川柳にする

例年6月は観察に行っていた比治山大学短期大学部付属幼稚園。「行けないのなら、せめて様子を知ることから！」と、幼稚園のブログを検索することで、子どもたちの様子を想像することにしました。頼りになるのはブログに載せられている写真と、付属幼稚園の先生方が園児と保護者に向けて書いたメッセージ。学生はブログを検索して、川柳を詠むことにしました。ブログからは、付属幼稚園でも登園自粛で、子どもたちは各家庭で過ごしていたことがわかりました。また、学生がブログを閲覧する1週間前に徐々に分散登園したことがわかりました。授業者のねらいはズバリ、「子どもと関わりたい」という気持ちを引き出すことです。さあ、学生は幼稚園の先生が撮ったどの写真を選び、どんな川柳を詠んだのでしょうか。

走ろうよ 太陽の下 気持ちいいな
 ・久しぶりの登園にワクワクが隠し切れてない子や少し不安な子など子供たちのいろいろな感情が見えました。おうち時間中にあった出来事や、なぜお家にいなければならなかったのかを先生に説明していたということを知り、お話しする時間がとっても楽しみだったのだなと思いました。お花を植えたりやカエルを捕まえたりと自然に触れ合う楽しさや、園庭を駆け回ったりする姿からお外で遊ぶ大切さが伝わってきました。イチゴを食べて酸っぱそうにしている男の子の顔がとても可愛かったです。

みーてみて おっきいかえる すごいでしょ
 ・コロナのため、家でできなかったことが幼稚園でできることがどんなに子ども達にとって嬉しいことなのかがとてもわかりました。

なんでかな 前より楽しい 砂遊び
 ・当たり前のように毎日していた遊びでも、久

しぶりにみんなで集まって遊ぶと余計に楽しく感じたのではないかと、この俳句にしました。

嫌だなぁ マスク暑いよ 夏だもん

- ・子どもにとってマスクはとても息苦しいものだと思います、それに加えて暑いのにマスクをしたまま遊ぶのはとても可愛そうだという気持ちで書きました。

気づいたら いちごが大きく なっていた

- ・自粛期間で幼稚園に行けてなかった時、育てていたいちごが大きくなって、幼稚園に行くと大きくなり赤くなっていた様子を考えました。

学生は、子どもたちの気持ちになりきって川柳を詠んでいました。また、幼稚園のブログを読んで、先生方の配慮にも気付いていたことが、次の記述から分かります。

- ・久しぶりの幼稚園で、砂遊びをしたり走ったりと全ての遊びに夢中な表情が写っていてこっちまで楽しい気持ちになった。外に出られない間のおうちの過ごし方や、なんでお家から出たらいけないのかを先生に説明したりしていて、先生も安心したのではないかなと思った。保護者への労いの言葉が添えられていて保護者への気配りもできているのですねと思いました。

(3) 話を聴いて川柳を詠む

学生が通っていた保育所や幼稚園のことを調べたり、語ったりしたくなるように、それぞれのチューター毎に教員の就学前施設時代の話をお聴きしました。その後、学生は川柳を詠みました。川柳を見ると、各教員がどんな話をしたのか、とても興味津々です。

暑い夏 アイスを食べても 大丈夫

- ・園長先生が夏休み前に言われたことを守って、アイスを食べるのを我慢していた話がとても可愛かったです。

お外出で 1人遊具で 遊んでる

- ・先生の新しい遊具が来た時のお話が本当に面白く、この話はすごく可愛い話だなと思いました。

お絵描きより バケツの絵の具 興味あり

- ・先生は絵を描くよりもバケツの中の色に興味を持っていた。

飛んでみた ジングルジムを 超危険

- ・先生に怪我をされると言われても納得できなくて実際に遊具から飛び降りて骨折してしまった話が衝撃的でした。

ただの砂 子供が持てば 魔法の砂

- ・ただの砂でも子供には色々な使い道があって色々なものに見立てられるのが素晴らしい事だと思いました。また、自分の保育園でも毎日誰かが泥団子を作っていたのを思い出しました。

おでんはね 一つ一つ 噛みしめて

- ・日本は順番や規則が多くありますが、おでんにも食べる順番があったんですね。おどろきました。先生が通われていた保育園はおでん一つ一つの味を味わって食べて欲しかったから、そのような指導をされたのだらうなと思います。

4. 「いろはかるた」づくりと展示

川柳でコンパクトに表現する練習を積み重ね、いよいよ「いろはかるた」づくりにチャレンジです。「いろはかるた」は、前期の授業で学んだことを正しく川柳にすることを求めました。

「いろはかるた」の文字は「い」から「ん」まで48文字で、1組は49名、2組は48名在籍しているため、チューター毎に人数分の文字を予めわりあて、それぞれのチューターで担当者を決めて、読み札と絵札を作成しました。

そして、さらに絵札と読み札を、チューター別に掲示しました。



(1) 幼教ブログでの紹介

幼教ブログで紹介された内容が、とても好評だったので、ここにそのまま転載します。

初めてのリモート授業も日常になっていった前期、1年生の初年次セミナーでは、授業のまとめとしていろはカルタを作成しました。

いろはにはほへとちりぬるを…それぞれを「保育の心理学」「教育基礎論」「子どもの保健」「保育原理」などなど、科目の内容とひもづけるといってお題。

簡単ではなかったと思いますが、皆さんのがんばりがユニークな作品の完成につながりました。



保育者は運動発達を促そう
絵がリアル！温かい色調で赤ちゃんの柔らかさが伝わってきます。



ヘルバルト 3つの要素で教育を
 なんだか、ヘルバルトさんが妙に怖くて惹か
 れました。



わがままな子どものイヤイヤ乗り越えよう
 イヤイヤ期自我が芽生えて成長だ
 同じテーマでもいろいろな表現があるもので
 す。でも、イヤイヤ期って子どもも大人も大変
 なのですね！



(2) 「いろはかるた」の例 (読み札)

アンパンマン 幼児図式が 完璧だ
 エリクソン 発達段階 考えた
 幼稚園 初めて作った フレーベル
 「かわいいねえ」 パパも使うよマザリーズ
 手を握る 把握反射 可愛いな
 モロー反射 手足広げて 身を守る
 レム睡眠 脳が覚醒 夢を見る
 うつ伏せ寝 母乳・喫煙 SIDS
 エンゼルプラン 仕事と子育て両立サポート
 見立て遊び 頭の中で イメージだ
 モラトリアム 沢山悩み いい未来
 日案で こどもの成長 見つけ出す

(3) 読み札の正確さ

読み札も絵も、正確性を求めました。授業の
 テキストや資料で確認して書いた学生が76.
 2%でした。続いて授業で強く印象に残って
 いたことをカルタの読み札にしていました(図
 1)。

(4) 情報収集力の調査

正確なカルタにするためには情報収集をする
 必要があります。情報収集の積極性について尋
 ねたところ、積極的に複数の情報を得たり、キ
 ーワードを自分で考えて情報を収集していたり
 しました(図2～図4)。

(5) 学生の感想

いろはかるたを作成し、チューターごとに展

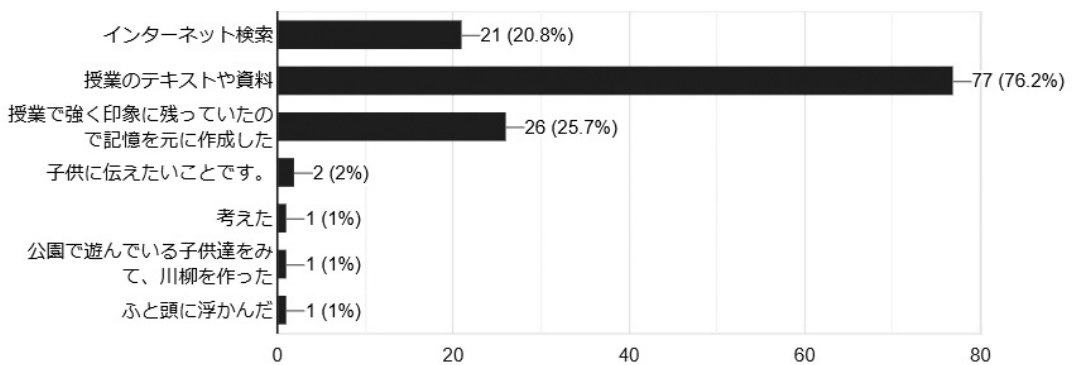


図1. 作成した「いろはかるた」の正確さ確保のためにしたこと

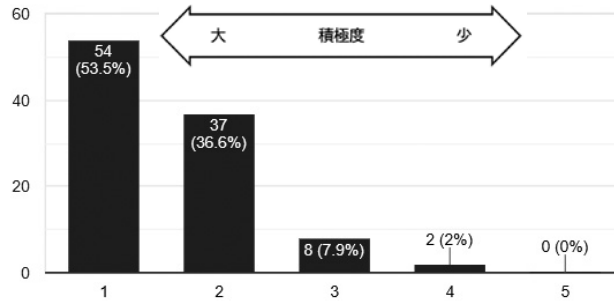


図2. 自ら積極的に情報を収集しようとしたか

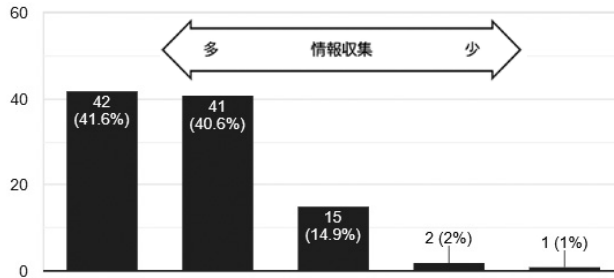


図3. 複数の情報源から情報を収集しようとしたか

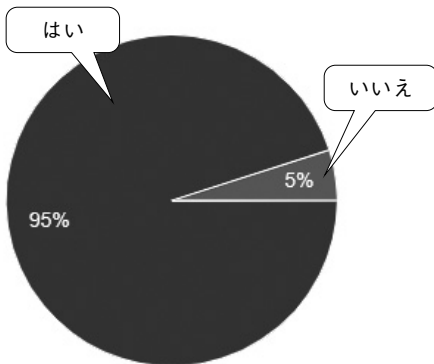


図4. 情報を収集するためにキーワードを自分で考えられたか

示し、鑑賞して、「今」思う、「前期を振り返って思うこと」「新たに改善、チャレンジしたいこと」について尋ねました。

・前期はみんなで集まる事が少なかったけど、カルタ作りの時にみんなで話す事が出来たので、会えなかったけど楽しく話せたので良かったですと思います。もっとみんなで集まる機会を増やしてみんなで協力していきたいです。

- ・最初の頃はチューターの仲間の事もあまり知らなかったけれど、どこに住んでいて、近くにある幼稚園や保育園はどこなのかなど知れたので良かった。カルタも協力して作れてチューターの人と仲良くなれた。チューターの人と協力しながら何か大きなものを作りたい。
- ・みんなに会えなかったけれど、どのチューターもすごく良い作品で、心はつながっていると思いました。コロナが収束したら、みんなでパーーって遊びたいです♡
- ・はじめはチューターのみなどと全然話すこともできなかったけど初年時セミナーで1人ずつ発言する機会などもありカルタをみんなで作ったりして仲が深まったと思う。人の意見を聞いて自分が気づけなかったこととか沢山あったのでよく観察して自分もいろんなことに気づいて行きたいと思う。
- ・今までたくさんのことを学んできたということがみんなのカルタを見てわかりました。自分なりに勉強を頑張れた部分と疎かにしてし

まった部分があると感じたので 伸ばすところは伸ばして、ダメなところは改善したいです。今度はチューターのみなどと話し合って協力しながらにかしてみたいです。

5. いろはかるたムービーづくり

前期の「初年次セミナー」最終回に実施した調査から(4-(4))、チューター毎での作品にとどまらず、全員で何か大きな作品を作りたいという感想が多数ありました。そこで、後期の「総合演習」の授業では、いろはかるたのムービーづくりに取り組みました。

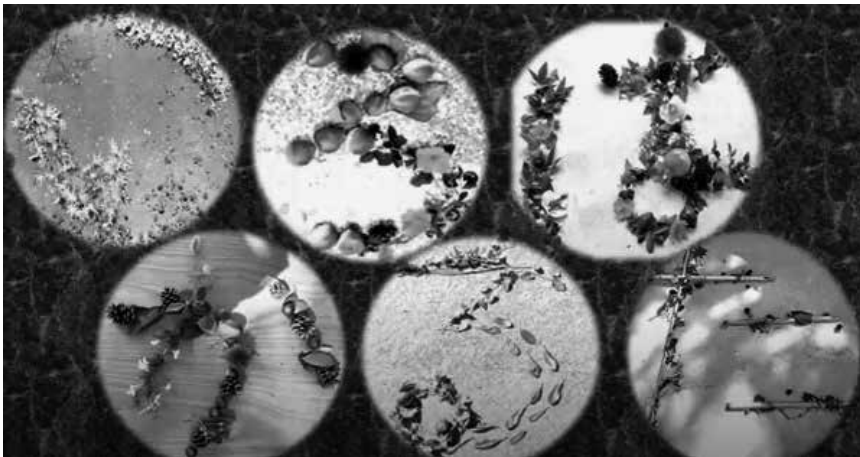
(1) ムービー表題づくり

「い、ろ、は、か、る、た、1、2」の8文字を8チューターそれぞれが1文字を協力して作ります。条件は、「自然のものを使って文字を作る」です。作成風景です。マスクをかけていても、集う喜びがあふれています。



(2) ショートムービー作成

全員で作成した文字を使ってムービーを作成しました。表題にはこの力作です。



(3) 大学祭に「いろはかるた」を展示

いろはかるたを誰かに見てもらうには、手直しが必要でした。学生は自分の絵札を見てくれるであろう「誰か」を想像し、アイデアを出し合い、協力し合って展示にたどり着きました。

次の写真とコメントは、幼教ブログのそのままを掲載しました。



(4) 幼教「いろはかるた」ムービー完成

大学祭には(3)のいろはかるたの展示だけではなく、チューター毎に絵札と読み札がわかる映像づくりをして、「い」から「ん」までをつなげたムービーも作成しました。

ここにある写真は、ムービーのほんのひとコマです。何度見ても飽きません。何よりも、教員より学生のムービーづくりがうまい！





ショートムービーは、「比治山大学ホームページ」→「学部・学科・専攻」→「幼児教育科」→「学科ニュース一覧」→「いろはかるたショートムービー」よりご覧いただけます。

幼児教育科の全員で作った絵札読み札のすべてがわかる「いろはかるたムービー」は、幼児教育科の教員に要請いただければ、ご覧いただけます。

6. まとめ

学生が、幼児教育科で学んでいることを意識できることと、同じ志の仲間がいることがわかることで、入学当初の修学意欲を持続させることをねらってトライした「いろはかるた」づくり。授業を進めるには、教員だけの力では難しいものがありました。どうなるかわからないけれど、学生を信じて任せることも多くありました。任された学生は、全員が心を一つにし、目標に向かって協力する必要がありました。

ところが、学生は教員の心配など気にもかけず、自分たちのアイデアを形にしていきました。なかには教員よりも高いITスキルを持った学生もいて、主体的に協力的に進めていく姿は、みんな生き生きとしていました。出来あがった「いろはかるた」もムービーも、当初の想像をはるかに超えたものでした。

今までやっていたことを変えてみたり、新しいことにチャレンジしたりするには、勇気が必要です。勇気はそんな簡単には出てきません。「えいっ」と振り絞ってようやく出てくるものです。COVID-19禍だからこそ、「やってみたい」が「やってみよう」になり、実現できることもあるのです。そして心をひとつにして「よし、やるぞ」と全員で作り上げたこの授業は、一生忘れることのない、大切な宝物の時間になったことでしょう。

(文責 七木田方美)